

年間第23主日

マルコ7・31～37

2015.9.6

イエズス会司祭 柴田 潔

8月23日から先週の月曜日まで東北のボランティアに行ってきました。前に司牧していた山口のグループと一緒に、参加者は全部で11名でした。その中に何人か高校生がいました。彼女たちは、新幹線の中で夏休みの宿題をしていて「偉いなあ。自分が高校生のときには部活や成績のことしか考えてなかった」とわたしは感心していました。高校生の中の一人は、高3の女の子がいました。ちょっと人とのコミュニケーションに自信がなくて、「被災地の方とどう関わったらいいの？」と質問をしてきました。わたしは「気の利いたことを上手に言うよりも、心で受け止めたらいいいんじゃない？」とアドバイスしました。

今回のボランティアでも、仮設住宅の集会所で「お茶っ子」といって、小物作りをして一緒にお茶を飲む活動がありました。集会所は狭いので、仮設で住んでいる方と若いボランティアさんを優先して、わたしは外でかき氷を振る舞いました。マンゴーとか抹茶とか珍しいシロップを用意して、見かけた方に声をかけて食べてもらいました。人数は多くないけど、食べてもらってうれしくなっていました。中には「かき氷は5年ぶり。前にはお祭りがあったけど震災があって・・・」という方もいらして、まだまだ普通の生活に戻れていないことを実感しました。

一日の活動が終わると分かち合いをします。その時、先ほどの高3の彼女がこう話しました。

一人のおばあちゃんとずっと一緒でした。おばあちゃんは、「周りには立ち直ってる人もいるけど、わたしはまだまだずっと引きずってる。全部流されて、逃げるときに着てた服しか残ってないんだから・・・」。「どうしよう？」と思ったけど、思い切って声をかけました。「わたしはあなたの味方ですよ」、そう言って、おばあちゃんの手に自分の手を乗せました。おばあちゃんは、涙ぐまれて「ありがとう。来てくれてありがとう」と応えてくれました。

彼女は、「自信がなかったけど、自分の思いを伝えたかった。来てくれてありがとうと言われて、心が通じてうれしかった」と涙ぐんでいました。

今日の福音でイエスは、「エッフアタ」「開け」と言われています。イエスの

わざで耳が聞こえない人、話せない人が自由に話せるようになりました。この「エッフアタ」「開け」は、この人だけの話ではありません。心が開けて、人と通じる時にわたしたちの間でも起こります。高3の子とおばあちゃんの間でも起きました。受験の時期に遠く山口から来た高校生と震災から4年半経ったおばあちゃんの心が開きました。「エッフアタ」「開け」は、人と人とのコミュニケーションも意味します。「私はあなたの味方ですよ」と言って手を重ねる。その行為が2人の心を通わせました。気の利いたことを言うんじゃないで、あるもの全部差し出して人と関わる。彼女の態度に、わたしは心を打たれました。

今日は、ミサの後、信者講座で「イグナチオの霊性」についてお話しします。その中で、こんな話を紹介する予定です。「イグナチオは、神様からの呼びかけには2つの応え方がある。1つは、分別のある人間として応えるもの。2つ目は、寛大な“心”で応えるもの。わたしたちは“心”で応えたい」。イグナチオの霊性と言うと、難しい印象を持つ方が多いかもしれません。でも、彼が一番大事にしたのは、“心”でした。“心”がどう反応するかを大事にしました。聖書のたくさんの知識があると立派そうに見えるかもしれません。教会のことを良く知っていると信仰深いように感じるかもしれません。でも、一番大事なのは、“心”から反応すること。さきほどの高校生のように、新幹線の中で宿題しながら、人と話すこと自信ないけど東北まで行く。そして「わたしはあなたの味方ですよ」と伝える。持っているもの全部差し出していく。わたしたちが、寛大な”心”で応えていく。そんなお話をしたいと思っています。

わたしたちが“心”を開ける、寛大な“心”で応えられる一週間になることを願ってミサを続けましょう。